

平成29年 3月 1日

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
国際ペット総合専門学校		平成16年12月28日	岡田 徹		〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町6-6 (電話) 028-614-2337		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人ティビィンシイ学院		昭和60年3月16日	齋藤 武士		〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5~6 (電話) 028-622-8110		
目的	企業等と連携し、お客様の要望をかなえられるよう、様々な犬種に合わせた最新のカット技術を修得させるとともに、愛玩動物を中心にそれぞれの動物の特性や飼育法などを学ばせることで、動物愛護の精神を育む。また、必要なコミュニケーション力を身に付けさせ、将来関係業界で活躍できる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程		トリマー学科		平成28年文部科学省告示第18号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,201	608	0	1,593	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
50人		44人		7人	6人		13人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに試験を行い、A,B,C,Dにより評価を付ける。		
長期休み	■夏季：7月第5週目～8月第3週目 ■冬季：12月第3週目～1月第1週目 ■春季：3月第2週目～4月第2週目			卒業・進級条件	①通年の成績評価が全てC以上であること。 ②各学科により指定された認定試験に合格すること。 (該当する場合のみ受験) ③各学科により指定された基準検定を取得すること。 ④90%以上の出席率であること。 ⑤各科目それぞれ70%以上の出席率及び80%以上の総出席率であること。 ⑥学費、その他学校納付金の納入が完了していること。		
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人面談、三者面談、保護者との連絡			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動(栃木県動物愛護指導センターにて保護犬猫のお世話) ■サークル活動：無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 犬の美容室ぶりぶり、ミヤペット ラフドッグなど トリミングサロン、ペットショップ、動物病院 ■就職率※1：100% ■卒業者に占める就職者の割合※2：100% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	・JKCTリマーライセンスC級 ・日本動物専門学校協会トリマーライセンス1級 ・全国ペット協会家庭動物管理士3級 ・愛玩動物飼養管理士2級		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成27年4月1日時点において 在学者 36名 平成28年3月31日時点において 在学者 34名 ■中途退学の主な理由 他分野への進路変更など			中退率	5.5% (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)		
ホームぺージ	http://www.fashionpet.ac.jp						
中途退学防止のための取組	性格検査を取り入れた個別指導教育法を行っている。定期的に個人面談および三者面談を行い、保護者と連携した指導を行っている。退学防止委員会を設置し、学生情報の共有化を図り、学校として学生とともに問題解決を図るべく努力している。また、校内に学生相談室を設け相談に乗っている。						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学科目的に基づき、専門分野に関係する企業等と連携し、就業先業界における専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを把握分析し、当該学科の教育課程の編成に資する。

(活動)

- ① 関連業界の専門性に関する動向について把握・分析する。
- ② 新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などについて把握・分析する。
- ③ 当該専門課程にふさわしい授業内容や授業方法の工夫・改善を図る。
- ④ 当該専門課程にふさわしい授業科目の開設等を協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ① 校長の管理下、本校各種委員会(諮問機関)に位置付け、企業等委員と連携し今後の教育課程の編成に資する。
- ② 校長は当該委員会の答申を受け、運営委員会に諮り全体会議で協議の上、教務部のもと関係学科が教育課程の編成に当たる。

(運営)

- ・当該委員会を本校内に設置する
- ・委員は、企業等委員(業界団体等委員及び企業委員)と学校委員とする。
- ・委員長は学校長とする。
- ・年2回以上実施する。
- ・協議結果をできるだけ重視し、関係学科の教育課程に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	①
前田 直樹	Dog Salon M・Style オーナー	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	③
岡田 徹	国際ペット総合専門学校 校長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	
山口 真利子	国際ペット総合専門学校 副校長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	
尾崎 正明	国際ペット総合専門学校 教務部長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	
五十嵐 恭彦	国際ペット総合専門学校 トリマー学科担当	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	
平原 千織	国際ペット総合専門学校 トリマー学科担当	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

2回

(開催日時)

第1回 平成28年6月23日(木) 14:00～16:00

第2回 平成28年9月1日(木) 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- i 爪切りで出血することへの意識の希薄さについて  
 (対応)出血がないようにする指導と外来犬のトリミングでの意識づけの徹底。  
 (課題)指導を徹底すれば特に問題はない。
- ii JKC資格取得へのこだわりが強いことについて  
 (対応)他犬種、サマーカット、大型犬など現場で対応できるような授業の機会を増やす。  
 (課題)実習犬の提供で協力いただいているブリーダーでは該当犬種の飼育頭数が少ないため、授業では多く扱えない現状がある。
- iii 接客力の育成について  
 (対応)外来犬のトリミングでの担当犬の接客を学生が責任を持って行う。  
 (課題)指導が必要な学生への個別指導と外部講師からの指導(特別講習など)
- iv ノミ、ダニの認識不足について  
 (対応)「動物看護学」の授業で取り上げて理解を深める。  
 (課題)実際に犬体についているノミ・ダニを見せることが一番良いが、そのような犬がない。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習先等でのサロンワークを通し、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術や接客術を修得するとともに、トリマーとしての素養を身につける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ① 担当教員と企業講師は事前に打合せを行い、実習内容の詳細について、「実習計画書」及び「評価基準」を作成する。
- ② 実習期間中は、担当教員と企業講師が連携し、学生の進捗や理解、授業態度や様子等について連絡し合い、その後の実習や授業運営に役立てる。
- ③ 担当教員と企業講師は学習成果について協議し、さらなる指導の改善・工夫を図る。
- ④ 実習修了後には、企業講師による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・科目修得認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
「企業実習Ⅱ」	「企業実習Ⅰ」で学び得た知識を活かし、トリミングサロンを中心にペット関連企業と連携し実習を行うことで、トリマーという職業について理解を深め、素養を高める。	Dog Salon M・Style、ミヤペット ラフドッグ、ベリーペット美容室、GEN'S DOG、Dog House 陽だまり 他 総数 18社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関係企業等と連携し、トリミングを中心としたペット業界に関連する最新の知識・技術並びに、学生に対する指導力等の修得・向上のため、企業等から講師を招いての校内研修及び職能団体等が実施する校外研修等への参加等を組織的・計画的に推進する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- i 対象：トリマー教員
- ii 内容：インターズー主催のセミナー「プードルの頭部アレンジ」に参加。ロッドを使ったカールヘアやヘアアクセサリーを付けてよりおしゃれ感を出すアレンジ法を学んだ。
- iii 期間：平成27年6月17日
- iiii 連携内容：人気サロンのトリマーによるセミナーで、カットだけでヘアスタイルを演出するのではなく、耳の毛をカールしたり、ヘアアクセサリーを付けたりすることで、犬のイメージを変えることができ、またそれらのヘアスタイルをするためのカット法などを学び、科目「グルーミング実習Ⅱ」において一般家庭の犬体をトリミングする際のスタイリングの見本として、これらの技術を学生指導に活かしていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- i 対象：全教職員
- ii 内容：履歴書やエントリーシートなどの選考書類の記入法を中心に、現役キャリアカウンセラーを招き指導を受けた。学生の苦手とする志望の動機や自己PRの有効な書き方や、得意分野、不得意分野など自己分析の手法を学んだ。また学生との適切な信頼関係のもと、キャリアカウンセラーとして自覚することの大切さを学んだ。学生の就職指導は全教職員で対応することが基本であり、これら学んだ内容を今後の就職指導に役立てる。
- iii 期間：平成27年9月7日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- i 対象：トリマー教員
- ii 内容：人気トリマーを招いたセミナー「現場の主流のT・プードルのペットカット」に参加。ペットカットとして人気の高い「アフロヘア」カットのポイントを学ぶ。
- iii 期間：平成28年7月26日
- iiii 連携内容：人気サロンのトリマーによるセミナーで、サロンでのカット犬としてメインとなるトイプードルの最新のカット技術を学んだ。また、犬の負担を最小限に抑えるための時間短縮法についてのアドバイスもいただき、科目「グルーミング実習Ⅱ」においてこれらの技術を学生指導に活かしていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- i 対象：全教職員
- ii 内容：カウンセリング協会の方を招き、学生理解のための学校カウンセリングマインドの基礎基本と初歩的カウンセリングスキルを学んだ。心の弱い学生、あるいは発達障害が疑われる学生が増えており、学生指導をするにあたってカウンセリングマインド技術は必須である。これら学んだ内容を活かし、今後学生理解と退学防止に役立てていく。
- iii 期間：平成28年8月26日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員による自己評価について、学校関係者評価を行い、学校の現状と課題を明らかにし、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資する。

- ① 自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- ② 学生、保護者、教職員、関係企業等調査により、学校の現状を把握する。
- ③ 授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- ④ 学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか評価する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか</li> <li>・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や、教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>

(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育理念・目標について、オープンキャンパスに参加されたことのある保護者の方への理解は得られているが、そうでない保護者の方には不十分であることが判明したため、次年度は入学前に保護者向けの説明会の開催を予定している。

学校運営情報については、ネット上にて公開されていることがあまり知られておらず、積極的にホームページの有効活用を推進していく。

社会貢献ということで、現在の活動状況について理解を得られたが、公開講座・教育訓練については消極的なところがあったので、可能なところから前向きに実施していく。

卒業生の就職先の活躍状況の確認については、委員からアドバイスをいただいた通り、求人票用紙をお送りする際に併せてアンケートを同封し卒業生の活躍等を確認している。

委員の方から学校運営についておおむね良好と評価をいただいたが、上記のようなご意見もあり、それらについては必要性、可能性のあるものから対応している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 全学科
前田 直樹	Dog Salon M・Style オーナー	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 トリマー学科
藤田 泰昌	ペットリゾートカレッジ株式会社 支配人	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 飼育・しつけ学科
菱川 則夫	泉が丘動物病院 院長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 動物看護師学科
亀井 眞起	GEN's DOG オーナー	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 ペットスペシャリスト学科
清水 邦一	清水動物病院 院長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	企業等委員 ペットスペシャリスト学科
野澤 裕子	保護者代表	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	PTA
松本 久実	保護者代表	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.fashionpet.ac.jp/common2016/pdf/pethyoka.pdf>

公表時期:平成28年9月26日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・公的教育機関として、教育活動や取組について、社会への説明責任を果たす。
- ・教育組織等の情報のほか、教育活動の公表を通じて本校教育の質の向上を図る。
- ・わかりやすい積極的な情報提供により、地域社会全体の信頼を得る。
- ・特色ある職業教育を対外的にアピールし、関係業界、地域住民、学生、保護者等の理解や支援を得る。
- ・日常的・組織的に公正な情報収集・提供に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目的、目標及び計画、校長名、所在地、連絡先、学院・学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針及び入学者数・収容定員・在学生数、進級・卒業要件等、取得を目指す資格・検定等及び実績、卒業者数・卒業後の進路、カリキュラム、時間割
(3)教職員	教職員数、教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学科行事
(6)学生の生活支援	学生支援の組織、学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援等の措置の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、消費収支計算書
(9)学校評価	自己点検・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生入学規定(募集要項)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.fashionpet.ac.jp/common2016/pdf/petjoho.pdf>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 トリマー学科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング実習Ⅰ	ハサミの取り扱い、カットの基礎を犬体を使って技術の習得を目指す	1通	684	△		○	○		○		
○			グルーミング実習Ⅱ	「グルーミング実習Ⅰ」で学んだことを深め、さらに高度なカット、時間短縮などより実践的な技術の習得を目指す	2通	684	△		○	○		○		
○			グルーミング理論Ⅰ	トリミング、グルーミングについての基礎知識、専門用語の理解を深める	1通	38	○	△		○		○		
○			グルーミング理論Ⅱ	犬の動き、歩様の理解。運動力学、ハンドリング学を学ぶ	2通	38	○	△		○		○		
○			犬学Ⅰ	犬種ごとの体格・性格・病気などの特徴について学ぶ	1通	76	○	△		○		○		
○			犬学Ⅱ	繁殖学、マネジメント学、生理学、遺伝学について学ぶ	2通	76	○	△		○		○		
○			動物看護学Ⅰ	動物看護に関する基礎知識を学ぶ	1通	38	○			○		○		
○			動物看護学Ⅱ	人獣共通感染症や滅菌・消毒法などについて学ぶ	2通	38	○			○		○		
○			栄養学	栄養素の基礎知識や動物にとっての危険食物について学ぶ	1通	38	○			○		○		
○			しつけ概論	動物行動の仕組みや家庭動物のしつけについて学ぶ	1通	76	○	△		○			○	
○			ペットショップ学	「家庭動物管理士3級」の試験合格を目指し、ペットショップで働くための基礎知識について学ぶ	1通	38	○			○		○		

